

令和5年度訪問型家庭教育支援推進事業 特別講演会

1. 日 時 令和5年9月10日（日） 10時30分から正午まで
2. 場 所 和歌山県立情報交流センターBig・U 研修室4
3. 参加者 参加者27名
4. 内 容

◆講 演

「令和の日本型学校教育」を推進するための家庭教育支援について
～全ての子供たちの可能性を引き出し、高めるために～

講 師 湯浅町立湯浅中学校 校長 川 口 厚 之 氏

1) 「令和の日本型学校教育」を捉える



全ての子供たちの可能性を引き出す、
個別最適な学びと、協働的な学びの実現

特性・学習速度・学習到達度
興味・関心・キャリア形成の方向性
よい点や可能性 等 について

子供一人一人を見る視点

2) 「令和の日本型学校教育」の実現を考える

不登校、いじめ、怠学、性非行等子供の課題について原因を辿った時、家庭の教育力の低下を問題視するか、子育てしにくい社会の要因を考えるか。

社会・経済的格差の広がり 家庭の多様化
親世代と子供世代の価値観の接近・同世代
幅広い人間関係力の必要性
つながりつづける情報化社会の不安感
孤立しやすい家庭

- 家庭学習習慣の定着と家庭への啓蒙
- 地域や保護者との良好な関係から積極的な地域との連携へ
- 地域と結びついたキャリア教育の展開
- 外部人材の積極的な活用
コミスク、SC、SSW、家庭支援組織
- 生徒の自尊心と自己肯定感を高める特別支援の視点

家庭教育支援の必要性

子供一人一人を見る視点

地域での見守りや関わり

アウトリーチ型の支援 = 訪問型家庭教育支援チームの設立

3) 訪問型家庭教育支援チームの 設立を計画する



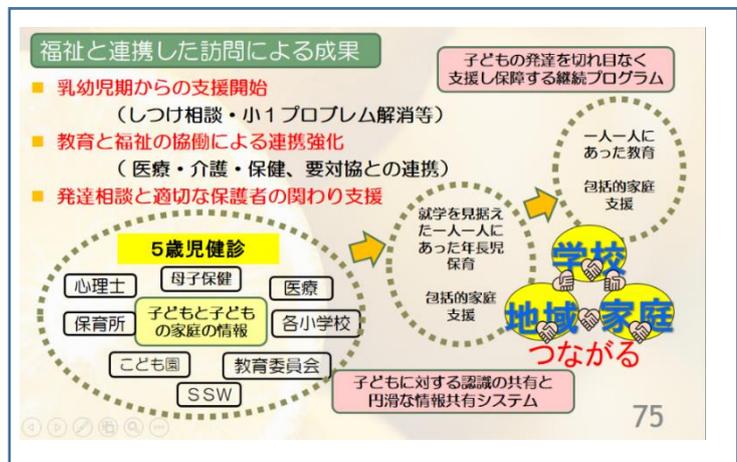
訪問型の種類 ～それぞれのメリットとデメリット～

全戸訪問 素人性	個別訪問 専門性
<ul style="list-style-type: none"> ■ メリット <ul style="list-style-type: none"> ・どの家庭にも警戒されず訪問ができる ・全戸訪問から個別訪問に繋げられる ・ノーマークの家庭が早期の問題発見につながる ・定期的に訪問するため、保護者の安心感やストレスの発散につながる ・学校全体の情報が入りやすい(全数把握) ■ デメリット <ul style="list-style-type: none"> ・支援員の人数確保や、準備、運営等の負担が大きい ・訪問件数が多くなるため、規模の大きい地域では難しい 	<ul style="list-style-type: none"> ■ メリット <ul style="list-style-type: none"> ・日数や時間、予算等がかからない ・始めるための人材確保や準備等が容易 ・課題のある家庭にピンポイントで必要な支援ができる ■ デメリット <ul style="list-style-type: none"> ・初期訪問のきっかけ作りが難しい ・訪問家庭をどう把握し、支援に結びつけるか困難 ・訪問を拒否される場合がある ・専門性が必要とされることが多い

支援方法の違い

42

4) 訪問型家庭教育支援チームの つながりを広げる



5) 「全ての子供たちの可能性を引き出し、高めるために」

全戸訪問による成果

- 初回訪問の受け入れやすさ
- 問題の早期発見・対応
- 気になる家庭への継続的な支援・見守り
- いつでも相談できる安心感
- 不信感等の解消



全戸訪問の成果を高める

- 困り感のない家庭への支援
- 虐待の問題への対応
- 義務教育終了後の子どもや家庭への支援
- 学校（園・所）や関係機関と連携した効果的な支援
- 保護者同士のつながりづくり
- 対応スキル向上のための支援者研修

5. アンケート（回収24名）

①参加者内訳

家庭教育支援関係者 … 9名
市町村行政職員 … 5名
民生・児童委員 … 1名

学校関係者 … 2名
子育て支援関係者 … 7名

②参加者の感想（一部抜粋）

- ・今の湯浅中学校の様子など、具体的なお話を聞いてよかったです。家庭環境がいかに子供たちの学校生活、学力に関係しているかがよく分かりました。家庭教育支援が少しお手伝いできるのであれば、やりがいがあることだと思っています。川口先生のおっしゃった「全ての子供に！」という思いが伝わってきて、今後とも、子供たちや学校にそった支援を続けたく思いました。
- ・本日は川口先生から大変分かりやすく、国や町の動きも含めお話いただきました。行政、学校それぞれから伺うことでよく分かりましたし、うまく支援、連携ができていたことが分かりました。家庭の教育力の低下という一面でなく、子育てしにくい社会になっているということが新たな学びとなりました。今、学校ではコロナ禍での地域とのかかわりの減少からどう戻していくかということが課題としてあります。また、教員の大量退職・採用の中で若手教員が増えています。若い先生たちは保護者対応が苦手ですうまくいかないケースもあります。教員構成変化の時期と湯浅町の訪問型家庭教育支援立ち上げは偶然にも時期が一致しており、この動きが多く若手教員を支え、学校を支えているのではないかと感じました。本当に良い学びの機会となりました。
- ・家庭教育支援の重要性を再確認することができました。学校と行政が連携することにより、家庭を一層支援することができると、データをもとに学ぶことができました。また、湯浅町家庭教育支援チーム「とらいあんぐる」の活動の様子、組織、役割など具体的に聞くことができ、大変参考になりました。
- ・情熱があり、アンテナが高い人がよい人材を見つけて広げていった事業だと思いました。できることからやり続けることが地域をよくしていくことだと思いました。川口先生の、先生をされた経験からの生徒を思う気持ちが、先生のアンテナと情熱とつなげていく力で広がった事業だと思つづく思いました。やっぱり、人の力は偉大ですね。
- ・日頃感覚的、感情的に考えたり悩んだりしていることを、理論的にまとめていただいた資料、お話を伺い、整理することができました。私の町でも平成28年度に取組を始め、川口先生にもお力添えをいただき湯浅町を訪問させていただきました。当時は困難と思っていた全戸訪問についても、より多くの学年の保護者を2年に1回訪問する形で定着しました。この取組や訪問支援員の思いをもっと学校にも伝えたいと考えています。今回、学校視点も加えていただいた川口先生のお話を伺い、少しずつでも情報提供、情報共有をはじめ「感謝の気持ち」の届け合いなども含めてやりとりを増やし、「子供の成長にかかわる同士」としての輪を広げるべく尽力したいと改めて思いました。